KONICA MINOLTA

適用機種：販売モデルは地域により異なります。

カラー機（CL）	C14010シリーズ、C5080シリーズ、C8100シリーズ
モノクロ機（BW）	---

オペレーションクイックガイド - No. 07 -

IQ-601

※本書では、AI-101が無い場合を前提としています。 Ver. 03.00

目次

1 はじめに

2 IQ-601の機能

3 印刷前の調整

4 印刷中の補正機能

5 トラブルシュート

6 その他

1 はじめに

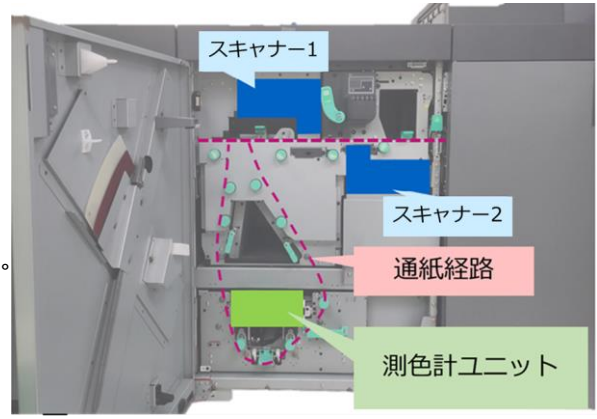
1-1. IQ-601とは

IQ-601は、画像位置や画質の調整を自動化できる”品質最適化ユニット”です。

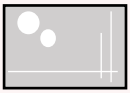
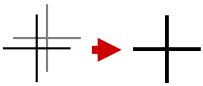
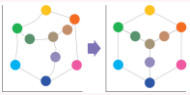
IQ-601は、３つのセンサーを搭載しています。
・測色計ユニット
・スキャナー1
・スキャナー2

<測色計ユニット>
色や濃度の調整に使用します。
オモテ面用のみを搭載しています。

<スキャナー>
濃度や画像位置の調整に使用します。
オモテ面用とウラ面用の２つの
スキャナーを搭載しています。



IQ-601に搭載された自動調整/補正機能は、4つの機能と3つの工程があります。

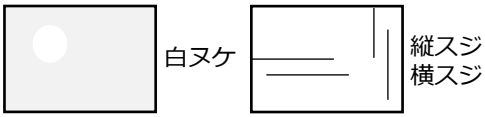
	印刷前	印刷中	トラシュー
スジ汚れ 	[簡易診断] and [詳細診断]	——	[簡易診断] and [詳細診断]
表裏位置 	[自動測定]	[定期表裏調整] or [自動画質補正]	[実画像表裏調整]
色 	[一括色自動調整]	[出力紙濃度調整] or [自動画質補正]	——
カール 	[RUカール調整]		——

1 はじめに

1-2. IQ-601の機能

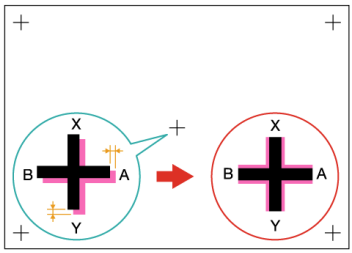
本体操作パネルにある調整機能を使用することで、印刷時の初期品質を確保できます。

画像診断（簡易／詳細）



画像上のスジやスポット（白ヌケ、黒や白の斑点または裏汚れ）などの発生を診断、および修復します。

表裏位置



両面印刷における表裏の画像位置ズレを調整します。

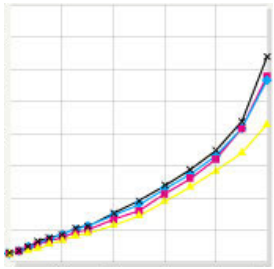
任意のタイミングで実施

- 出力したチャートを読み取り、表裏位置調整を実施
- 任意のイメージシフト（調整値を手動入力）

“定期調整（全自動）”のON／OFF設定

- 規定の印刷枚数に到達したら、自動で実行
- 用紙補給等でトレイを開閉したら、自動で実行

一括色自動調整



複数の調整機能を一括で自動実行して、色を調整します。

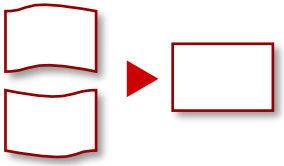
任意のタイミングで実施

- 予め選択した調整項目を自動で実行

“自動実行（全自動）”のON／OFF設定

- 電源ON後に、機械が[一括色自動調整]を自動で実行

RUカール調整



各トレイごとに出力紙のカール（円弧上の変形）を調整します。

任意のタイミングで実施

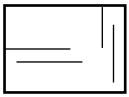
- 本機が自動で調整値を作成
- 任意の調整（調整値を手動入力）

2 IQ-601の機能

2-1. 画像診断

[画像診断]を実施し、画像の白ヌケやスジの発生を診断します。
診断結果が異常だった場合、画像トラブルの自動修復を行います。

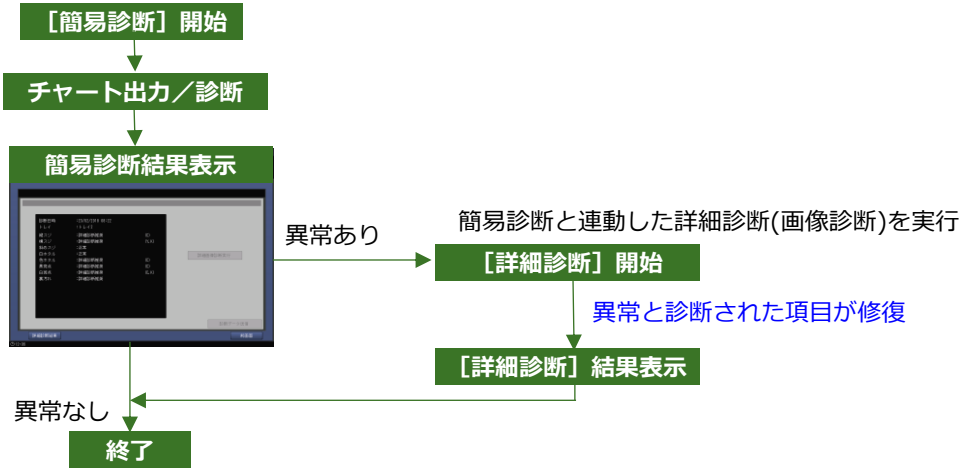

白ヌケ


縦スジ
横スジ

画像診断の設定方法

［調整］－［画質調整］－［画像診断］- [基本設定]に移動します。

基本設定項目	内容
簡易診断と連動した詳細診断(AQA) ※AQAについては10ページ参照	一括色自動調整の[画像診断と連動(AQA)]がONのとき、簡易診断で異常が検出されると、詳細診断を自動実行する。 推奨：[する]に設定する。
簡易診断と連動した詳細診断(画像診断) ※下記図参照	画像診断(簡易診断)で異常が検出されると、詳細診断を自動実行する。 推奨：[する]に設定する。
詳細診断結果の自動リセット	詳細診断結果を自動で削除する。



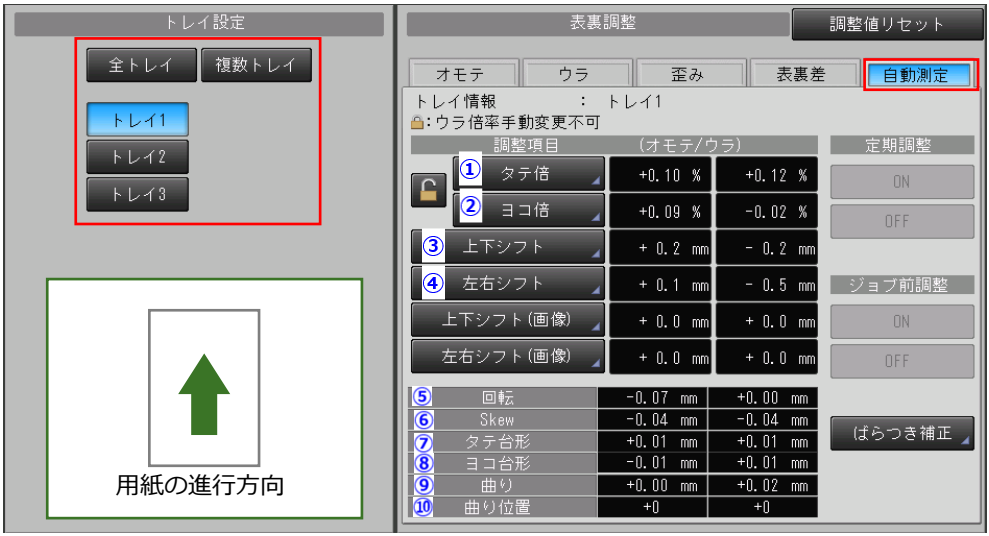
注意

- 画像診断（簡易、詳細）を実施するには、以下の用紙サイズが必要です。
  タテ：279.4 mm以上、ヨコ：420.0 - 487.7 mm
- 簡易診断は３枚のチャートが出力されます。詳細診断は修復内容に応じて枚数が変動します。

2 IQ-601の機能

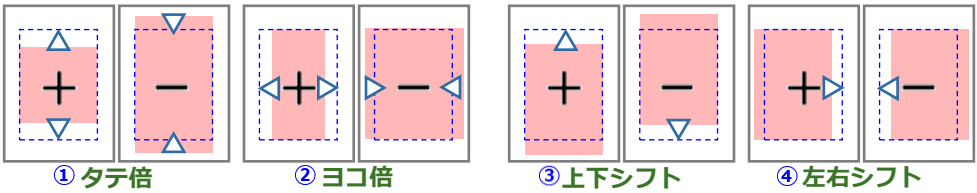
2-2. 表裏位置調整

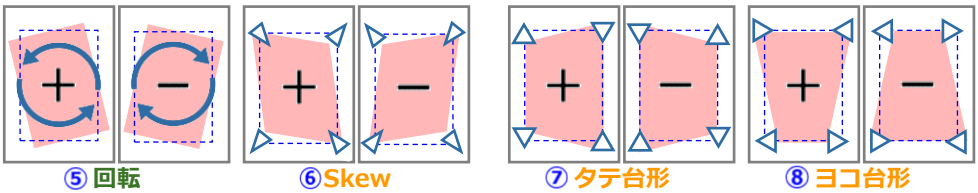
両面印刷における表裏の画像位置ズレが発生する場合は、表裏位置調整を実施します。
［機械状態］画面 －［表裏調整］－［自動測定］
［自動測定］画面では、画像位置に関する様々な項目を、トレイごとに一括で調整できます。

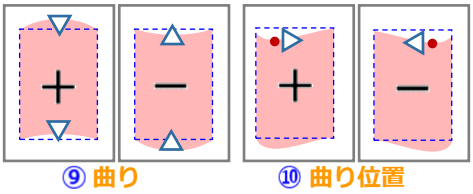


※[ばらつき補正]については「OQG No. 13 IM-101/104/105冊」をご覧ください。

<自動で調整できる項目：全用紙サイズ / 長さ900mm以下の用紙のみ>



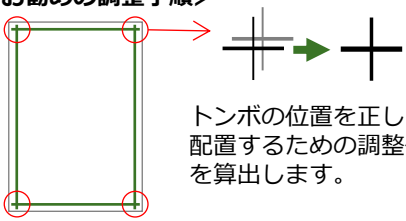




以下２つの機能は、手動の調整項目です。
・上下シフト（画像）
・左右シフト（画像）

2 IQ-601の機能

<お勧めの調整手順>



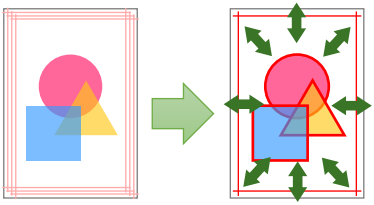
トンボの位置を正しく
配置するための調整値
を算出します。

自動測定

調整用チャートを使用して、
複数の項目を一括で自動調整します。

CHECK!
チャートは最大で20枚出力できます。
平均値を使用するので、枚数を多くすると精度が向上します。

微調整（手動）



自動測定後に、調整値を任意に変更できます。
但し、次に自動測定を実施すると、
新しい調整値に上書きされます。

上下シフト（画像）/左右シフト（画像）
任意のイメージシフト量を入力できます。
この入力値は、自動測定を実施しても
リセットされません。

他の調整は、［自動測定］のたびに
トンボと画像が一緒に移動します。

注意

- ［自動測定］は、用紙設定でセットされた用紙の寸法値を元に調整値を作成します。
  以下2点の条件を満たす用紙をご使用ください。
  - 用紙のタテ/ヨコの寸法が正しいこと
  - 用紙の四隅が全て直角（90度）であること

07-100_印刷前の調整機能 表裏調整

2 IQ-601の機能

<便利な機能>

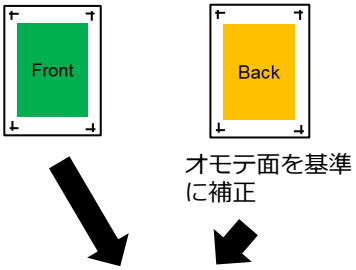
オモテ面の倍率ロック

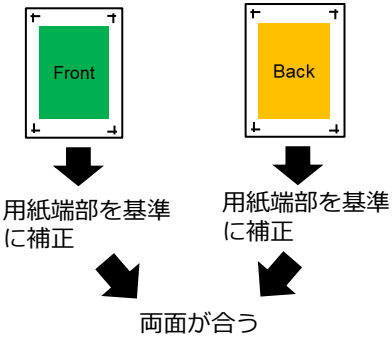
例えば用紙サイズの登録値と実測値とが異なるなどの理由で、手動で倍率を微調整したい場合があります。通常は自動調整のたびに調整値がリセットされますが、この機能を使用するとオモテの倍率（タテ/ヨコ）はリセットされず、手動での入力値を維持できます。

使用する際は、「鍵」マークをON（右図）します。
ONした場合、自動で倍率が調整されるのは
ウラ面だけになります。
オモテ面の倍率の自動調整は実施されません。



オモテ面の倍率固定ON・OFFの違いは以下の通りです。

<table>
<tr><th>項目</th><th>倍率固定ON</th><th>倍率固定OFF</th></tr>
<tr><td>どのように補正値が変わるか</td><td colspan="2">
<table>
<tr><th colspan="2">補正値</th><th>手動入力</th><th>自動測定</th><th>自動画質補正</th></tr>
<tr><td rowspan="2">タテ倍</td><td>オモテ</td><td>✓</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>ウラ</td><td>－</td><td>✓</td><td>✓</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ヨコ倍</td><td>オモテ</td><td>✓</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>ウラ</td><td>－</td><td>✓</td><td>✓</td></tr>
</table>
*倍率固定OFF時は、全ての補正値が変わります。
</td></tr>
<tr><td>[自動測定]と[自動画質補正]使用時の倍率の補正方法</td><td>
• オモテ面倍率は補正されない。
• ウラ面倍率はオモテ面に基づいて補正される。


</td><td>
オモテ面とウラ面の倍率は、用紙端部に基づいて補正される。


</td></tr>
<tr><td>使い方</td><td>倍率を維持したいとき
([自動画質補正]を使用中のジョブにおいて、オモテ面の倍率は補正されない。)</td><td>通常使用</td></tr>
</table>

2-3. 一括色自動調整

色の調整をしたい場合は、一括色自動調整を実施します。
［機械状態］画面 –［調整］–［画質調整］–［一括色自動調整］
［一括色自動調整］画面では、画質の各種調整を自動で一括実行できます。



<自動で調整できる項目と、時間/枚数の目安>

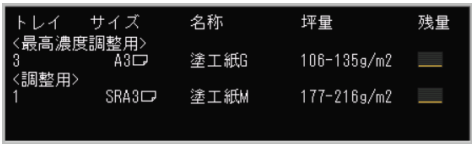
調整項目	KM製コントローラー	Fieryコントローラー
ガンマ自動調整	2分/0枚	
濃度バランス自動調整	1分/2枚	
最高濃度調整	6分/4枚	
出力紙濃度調整	1分/2枚（高精度）	
コントローラーキャリブレーション	ー	2分/1枚
Exact Color またはG7	2分/10枚（EC） 2分/05枚（G7）	ー
計	**12分/19枚（EC） 12分/14枚（G7）**	**12分/9枚**

注意

- 上記は、調整対象として［スクリーン1］のみを選択した場合です。
- ［最高濃度調整］の実施には、目標濃度の登録で使用したものと同じ用紙が必要です。

2 IQ-601の機能

<調整の手順>



用紙情報の確認と設定

<最高濃度調整用>と<調整用>の用紙情報を確認します。
必要に応じてトレイの用紙を入れ替え、［用紙設定］で設定を変更します。



［初期設定］の確認と設定

必要に応じて、設定を変更します。
［診断結果に従う］をONすると、本機が必要な調整を自動実行します。

調整の実行

［スタート］ボタンを押下し、調整を実行します。



調整結果の確認

［調整結果］ボタンを押下し、調整結果を確認します。

注意

- ［一括色自動調整］で使用できる用紙サイズは、以下の通りです。
  - KM製コントローラー：A3、SRA3、11″x17″、12″x18″、13″x19″
    不定形サイズは279.4x420.0mm以上
  - Fieryコントローラー： A3または11″x17″以上の用紙

上記以外の用紙を使用して調整する場合は、「QG No. 06A/06B冊」をご覧ください。

2-4. カール調整

調整用チャートを使用して、用紙のカールを自動調整します。
この調整は、トレイ単位で個別に実施できます。



［機械状態］画面 –［用紙設定］– トレイ選択 –［設定変更］-［RUカール調整］

注意

- RU-518またはRU-518mが必要です。
- 通紙方向の長さが488mm以上の用紙は、この機能を使用できません。

07-130 一括色自動調整

2 IQ-601の機能

2-5. 自動品質調整：AQA(Auto Quality Adjustment)

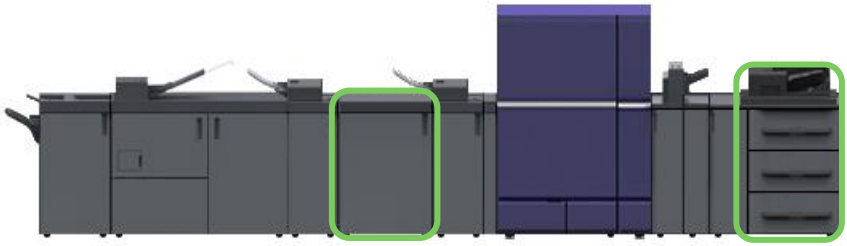
AQAとはIQ-601の機能である**画像診断と一括色自動調整を連携**し、**一連の調整を一括で自動実行する機能**です。

AQAで出来ること

AQAを活用する前は…	AQAを活用すると…
毎朝、始業時に手動で色調整作業を実施。	前日にトレイへ用紙をセットしておくと、タイマー設定時刻に電源が入り自動で調整開始。
保有する台数によってはマシン管理が負担に…。	すぐに生産を開始でき、画像品質も安定、印刷生産性向上。

AQAの流れ

表裏調整 ➡ 簡易診断 ➡ 詳細診断 ➡ 一括色自動調整



起動時(朝一電源ONの後)にAQAを実行

用紙は前日にセットする

	AQA (Auto Quality Adjustment)	
	画像診断	**表裏調整／一括色自動調整**
機能	簡易診断＋詳細診断	表裏調整／ガンマ調整／濃度バランス調整／最高濃度調整／出力紙濃度調整／Exact Color or G7 or コントローラーキャリブレーション
効果	画像の白ヌケやスジの発生を診断する。診断結果が異常だった場合、画像修復を自動で実行する。	両面印刷における表裏の画像位置ズレを調整する。 画像診断結果から必要な色調整を自動実行し、画像の色を常に安定化させる。

CHECK!

起動時以外に、指定時刻にAQAを実行

予め、設定した時刻になったとき、AQAを自動実行します。

［機械状態］画面 –［調整］–［画質調整］-［一括色自動調整］-［初期設定］
曜日ごとの開始時間も設定できます。

3 印刷前の調整

3-1. 調整機能の自動実行設定

IQ-601は画像位置と画質の調整を自動実行する便利な設定があります。

● **定期表裏調整の設定（画像位置：［自動測定］調整）**

設定した調整間隔（枚数）ごとに、自動で［自動測定］を実施します。
全体の設定画面と、トレイ毎のON/OFFに分かれています。

［定期表裏調整］（共通の設定画面）

［調整］-［画質調整］-［定期表裏調整］

CHECK!
調整間隔（100-9999枚）を設定すると、印刷中に調整を実施します。

例：調整間隔500枚



調整チャート

位置ズレチェックをONすると、位置ズレが許容値を超えている場合に調整を実施せず、印刷を一時停止します。
許容値：0.5-10.0mm

［定期調整］（トレイごとのON/OFF設定）

［表裏調整］– トレイ選択 -［自動測定］

● **ジョブ前調整（画像位置：［自動測定］調整）**

トレイを開け閉めした後（＝用紙をセットした後や入れ替えた後）に、
自動で［自動測定］を実施します。
全体の設定画面と、トレイ毎のON/OFFに分かれています。

［ジョブ前表裏調整］（共通の設定画面）

［調整］-［画質調整］-［ジョブ前表裏調整］

［ジョブ前調整］（トレイごとのON/OFF設定）

［表裏調整］– トレイ選択 -［自動測定］

● **出力紙濃度調整（画像位置：［自動測定］調整）**

定期表裏調整と同様、設定した枚数に達したら、ジョブを停止し出力紙濃度調整を実施、
ジョブを再開します。

［定期表裏調整］（共通の設定画面）

［調整］-［画質調整］-［出力紙濃度調整］ -［基本設定］

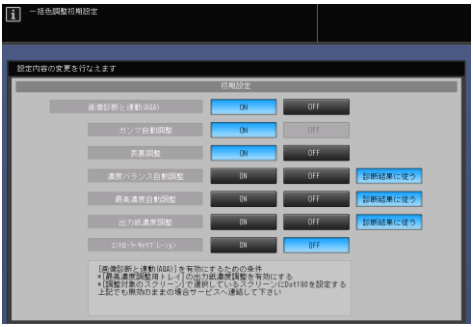
- ［定期調整の実行］：「する」に設定
- ［調整実施タイミング］：「ジョブ動作中」に設定
- ［調整間隔］：「する」に設定
  （100-9999枚）を設定すると、印刷中に調整を実施します。
- ［表裏調整の同時実行］：「する」に設定

3 印刷前の調整

- **AQA：「画像診断 + 一括色自動調整」の自動実行**

［初期設定］

［調整］-［画質調整］-［一括色自動調整］–［初期設定］





- [画像診断と連動（AQA）]：「ON」に設定
- [自動実行]で[起動時]に設定すると、電源ON時にAQAが実行されます。
- [自動実行]で[指定時刻]に設定すると、指定時刻になったとき、AQAが実行されます。
- [自動実行]で[通知のみ]に設定すると、［一括色自動調整]を自動で行わず、調整をおすすめするメッセージと[AQA]キーをタッチパネルに表示します。

項目	内容
画像診断と連動（AQA）	[ON]に設定する。 画像診断と一括色自動調整を連動させます。
ガンマ自動調整 表裏調整 濃度バランス自動調整 最高濃度自動調整 出力紙濃度調整	自動で調整する項目を設定する。 AQA が[ON]の場合： [ON]に設定した項目は、画像診断結果に関わらず、[画像診断]のあとに調整が行われます。 [診断結果に従う]を選択すると、画像診断結果で必要と判断された場合に調整が行われます。 推奨：[診断結果に従う]に設定する。
Exact Color／G7	Exact ColorまたはG7を設定している場合に表示されます。 尚、KM製イメージコントローラー装着が必要です。
ｺﾝﾄﾛｰﾗｷｬﾘﾌﾞﾚｰｼｮﾝ	Fiery社製のイメージコントローラーを装着している場合に表示されます。

07-140 調整を使いこなす

3 印刷前の調整

3-2. 印刷前の調整タイミングについて

印刷前の調整を自動実行するタイミングについて、以下の内容を推奨します。

◆ 起動時（朝一電源ONの後）

［AQA］を実施しましょう。
[AQA]を起動時に設定すると電源ON後に実施されるので、調整忘れを防止できます。

調整項目	毎日	1回/1か月	備考
表裏調整	✓	✓	ー
画像診断(簡易診断 + 詳細診断)	✓	✓	ー
ガンマ自動調整	✓	✓	ー
濃度バランス自動調整		✓	ー
最高濃度調整	✓	✓	**最高濃度調整用の用紙で**
出力紙濃度調整	✓	✓	ー

簡易診断と連動した詳細診断（AQA）を設定している場合、簡易診断で異常検知すると詳細診断を自動実行します。

◆ ジョブの印刷前

まずは、［自動測定］で**表裏位置調整**を実施しましょう。※5ページ参照
［ジョブ前調整］をONすることで、用紙を変更した際の調整忘れを防止できます。
必要に応じて、微調整（上下/左右シフト（画像）など）も実施します。

1ジョブあたりの印刷枚数が多い場合は、事前に［定期表裏調整］を設定できます。

次に画像診断と一括色自動調整を実施しましょう。※4ページと8ページ参照
　通常：1,000~2,000枚印刷するごとに
　重要：色味の安定性が問われる重要なジョブを印刷する前に

調整項目	通常	重要	備考
画像診断(簡易診断 + 詳細診断)	✓	✓	ー
ガンマ自動調整	✓	✓	ー
濃度バランス自動調整			ー
最高濃度調整		✓	**最高濃度調整用の用紙で**
出力紙濃度調整	✓	✓	ー

次にテスト印刷（1部）を実施し、必要に応じて自動カール調整を実施します。

07-150 調整機能のまとめ

4 印刷中の補正機能

4-1. 自動画質補正

［自動画質補正］は**断裁代（用紙の余白部分）にトンボと階調パッチを配置**し、印刷中に全ての画像の位置と画質(諧調)をリアルタイムに補正する機能です。



IQ-601が断裁代に印刷されたトンボとパッチを読み取ることで、補正を行います。

使用可能なジョブ
- 断裁代のあるジョブ
- プリンタージョブ

07-050_自動画質補正

自動画質補正のモード
- **位置と階調**
（トンボと階調パッチが印刷されます）
- **位置のみ** ※”階調のみ”はありません。
（トンボのみが印刷されます）

※プリンタードライバー／AccurioPro Print Manager／Fiery Command WorkStationから設定できます。

注意
- 定型紙は、SRA3、SRA4、13”x19”、12”x18”が使用可能です。
- 不定形紙は、通紙方向が225.0mm-900mmの用紙が使用可能です。

要点
- フィードバックデータ作成は、印刷開始から10枚目以降が起点になります。
- 自動画質補正に対し、許容値を設定できます。
エラー発生時に、印刷を一時停止させることもできます。
- 自動画質補正を実行しているジョブには、定期表裏調整と出力紙濃度調整（ジョブ動作中）は動作しません。

4-2. 自動カール調整

自動カール調整がONの場合、調整用チャートを使用せずに、ジョブ実行中に用紙のカールを自動調整します。この調整は、トレイ単位で個別に実施できます。



注意
- RU-518mが必要です。
- 通紙方向の長さが488mm以上の用紙は、この機能を使用できません。
- 補正開始は、”3枚以上を測定し、フィードバックデータを計算した後“です。

07-060_自動カール調整

4 印刷中の補正機能

4-3. まとめ

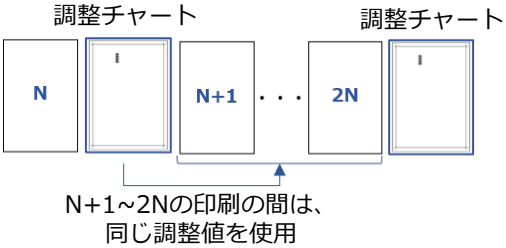
IQ-601の印刷中における補正機能は、以下の通りです。

◆ 画像位置と画質の補正

［定期表裏調整］と［出力紙濃度調整（ジョブ動作中）］の組み合わせか、
または［自動画質補正］のいずれかから選択できます。

定期表裏調整と出力紙濃度調整の例

調整間隔 N枚のとき



自動画質補正の例



各ページを測定し、平均値を算出して
リアルタイムにフィードバック。

それぞれの特徴は、以下の通りです。

	［定期表裏調整］ & ［出力紙濃度調整］	**［自動画質補正］**
精度	調整間隔の 設定に依存	リアルタイムに 調整値を更新
用紙	さまざまな用紙 サイズに対応	断裁代が必要
条件	調整が実施されるたびに カウンタがリセットされる	50枚以上のジョブでの 使用を推奨
注意事項	位置も階調も、調整後に大きく 変化する可能性がある。	階調のみの調整は できない。
備考	両方をONした場合は、［自動画質補正］のみが動作する。	

［出力紙濃度調整］にも、表裏調整を同時に自動実行する設定（ON/OFF）があります。

◆ 用紙カールの補正

トレイごとのRUカール調整で［自動］を設定するだけで、ジョブ中にも
カール補正のフィードバックデータを作成し、順次更新/適用します。
（自動画質補正と同様です）

5 トラブルシュート

5-1. 画像位置のトラブルシュート

◆ 基本的なトラブルシュート

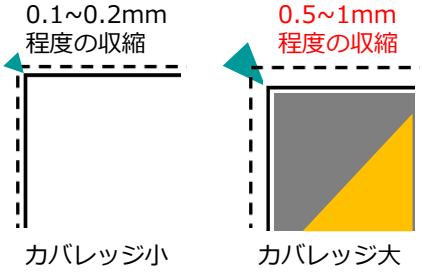
画像の表裏が気になるときは、以下の対策の実施をご検討ください。

	手順	説明
Step-1	［自動測定］を実施する。	まずは調整を実施し、問題が解決できないかを確認します。
Step-2	イメージシフト（画像）を使用する。	用紙設定で登録した情報と、実際の用紙サイズとが異なる場合、［自動測定］は上手く動作しません。
Step-3	用紙サイズを確認する。	用紙設定で登録した情報と、実際の用紙サイズとが異なる場合、［自動測定］は上手く動作しません。
Step-4	オモテ面の倍率を手動で入力した上で、オモテ面の倍率ロック機能を使用する。	ロック機能を使用した場合、オモテ面の倍率は手動で入力した値が使用されます。 裏面の倍率は、自動で調整されます。

◆ 実画像表裏調整

カバレッジ（ページ単位でのトナー量）の高低で、用紙の収縮度合いが異なる場合があります。

その際に発生する位置ズレを解消する機能が、［実画像表裏位置調整］です。



［実画像表裏位置調整］は、プリンタードライバーまたはジョブ管理アプリケーションから設定できます。

PS Plug-Inドライバー / AccurioPro Print Manager
［ワークフロー］タブ

Fieryドライバー / Fiery Command WorkStation
［ワークフロー］タブ

ONすると、用紙端部から23mmの領域を全て消去した上で、［自動測定］と同様の調整用トンボを配置して印刷します。
高カバレッジのページのみを印刷することで、調整値を作成できます。

高カバレッジ用と低カバレッジの用紙を別々のトレイとすることで、
それぞれの調整値を作成できます。

例） トレイ１：低カバレッジ用（［自動測定］を実施）
　　トレイ２：高カバレッジ用（実画像表裏調整を実施）

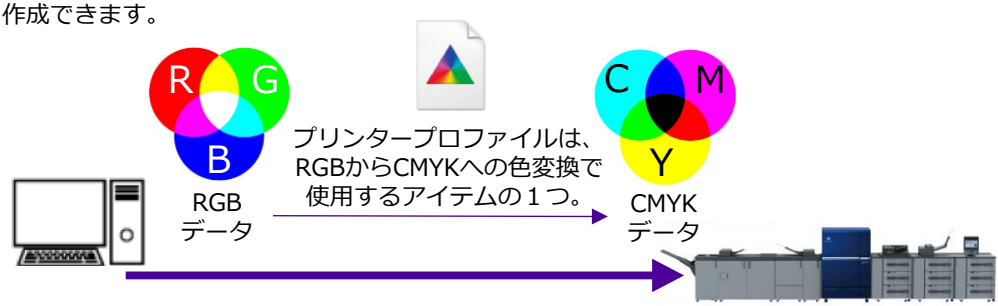
6 その他

6-1. その他の機能

IQ-601には、自動調整/補正機能以外にも便利な機能があります。

◆ プリンタープロファイルの作成

IQ-601に搭載された測色計ユニットとスキャナーを使用して、プリンタープロファイルを作成できます。



プリンタープロファイルによって、用紙ごとに異なる印刷の色味を最適化できます。

<用紙ごとの違い>
- 厚み（坪量）
- 表面（塗工/非塗工）
- 色味（白色度）

用紙ごとの色味を最適化したい場合、
用紙ごとのプリンタープロファイルの作成を
推奨します。

プリンタープロファイルの作成方法

操作パネルでプロファイルの作成を実施できます。

［機械状態］画面 –［コントローラー設定］–［色管理］–［プリンタープロファイル作成］

注意

使用できる用紙は、以下の通りです。
- 定型紙：A4、A3、11″x17″、8.5″x11″
- 不定形紙：210.0 x 279.4mm以上

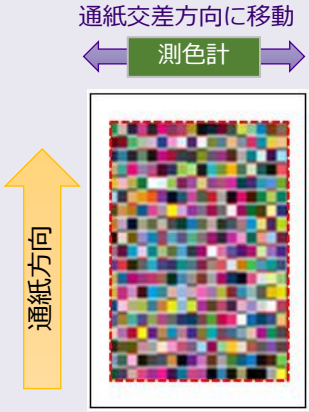
※測色モードを[画質優先]にした場合は、以下のみ使用可能です。
A3、11″x17″ 、279.4mm x 420mm、11″x16.54“ 以上

- 出力ジョブ数を増やすことで、精度を向上できます。
- **測色モード**は[速度優先]、[画質優先]から選択します。
- 測色条件は、［M0］、［M1］、［M2］から選択します。
  - M0： A光源。一般的な光源です。
  - M1： D50光源。最新の光源です。
  - M2： A光源+UVフィルター。蛍光増白剤を使用した用紙のための光源です。
- UCR/GCRは、CMYをK単色に置き換えることでトナー使用量を低減できます。
  但し設定によって色味が変わる場合があるため、注意してください。
- 用紙プロファイルに設定しておくと、用紙プロファイルを選択するだけで
  自動的にプリンタープロファイルも選択した状態になります。

07-110 プリンタープロファイル作成

6 その他

測色モード：[速度優先]と[画質優先]の違い

	速度優先（既存機能）	画質優先（高精度測色モード）
動作	**通紙しながら、**測色計とスキャナーでパッチを読み取る。	**用紙を止め、**測色計を通紙交差方向に動かし、1ライン目のパッチを読み取り後、用紙を少し動かし、2ライン目のパッチを読み取る。これを全ラインを読み取るまで繰り返す。
イメージ 青：スキャナー 赤：測色計		
プリンタープロファイル作成時間の目安（SRA3の場合）	1分30秒	8分30秒

07-120 測色計ユニットの動作

6 その他

◆ 色検証

IQ-601に搭載された測色計ユニットを使用して、印刷の色味が業界基準（欧州、日本、米国）を満たしているかを確認できます。

メンテナンスの必要性の確認等にご使用ください。

欧州　日本　米国

選択できる業界基準

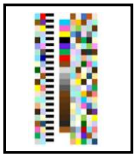
- **Ugra/Fogra 39**
- **JapanColor 2011**
- **IDEAlliance 2013**

<基準に対する目安（許容差）>

- **認証規格相当（厳しい）**
- **一般（現実的）**
- **カスタム（編集可能）**

の3種類から選択できます。

<実施方法>



チャート（ウェッジ）を印刷し、同時にIQ-601で測定します。

操作パネルまたはレポートにて、目安と実測値の比較結果を確認できます。





色検証の実施準備

操作パネルで、まず［ターゲットセッティング］を実施します。

［機械状態］画面 –［コントローラー設定］–［色管理］–［ターゲットセッティング］

- 目安で［カスタム］を選択すると、編集画面が表示されます。
  この編集画面で、［認証規格相当］と［一般］の許容値を確認できます。

色検証の実施

操作パネルで実施できます。

［機械状態］画面 –［コントローラー設定］–［色管理］–［色検証］

注意

使用できる用紙は、以下の通りです。

- 定型紙：A4、A3、11″x17″、8.5″x11″
- 不定形紙：210.0 x 279.4mm以上

※測色モードを[画質優先]にした場合は、以下のみ使用可能です。

A3、11″x17″ 、279.4mm x 420mm、11″x16.54″ 以上

07-090 色検証

MEMO

© 2025 KONICA MINOLTA, INC.